



# 横浜陶芸友の会だより

第 168 号  
平成 29 年  
7 月 1 日 発行

## 総務部より

### 「総会の報告」

5 月 13 日 (土) 13 時より、10 名の会員が集まり、各議案についての報告と審議を行いました。

#### ◎ 会長挨拶

#### ◎ 議長・書記の選出

#### ◎ 議事

○ 平成 28 年度事業報告

○ 平成 28 年度会計決算報告・会計監査報告

○ 平成 29 年度事業計画

○ 平成 29 年度会計予算

#### ◎ 役員の選出と改選

#### ◎ その他

○ 第 40 回作品展 (2019 年) の計画

皆様ご多忙のようで、出席者が少なかったのが残念でした。

※ 友の会発足時より、多大に貢献されていた 3 名の方が永眠されました。

生前の感謝と共に、心よりご冥福をお祈り致します。

大田 公治 様 平成 28 年 8 月

江口 鈺三郎 様 平成 29 年 4 月

大泉 武彦 様 平成 29 年 2 月

### ・次回役員会の予定

8 月 26 日 (土) 15 時半より

杉田地区センター (中会議室)

総務部長 池見

### 「役員会の報告」

4 月 22 日 (土) 18 時 30 分より、会長、副会長、各役員 11 名で総会に向けて話し合いました。

#### ・平成 28 年度事業報告

○ 事業部 作品展の報告

○ 専修部 春期焼成会の報告

○ 広報部 友の会たより 年 3 回発行

○ 会計部 平成 28 年度決算・監査報告

○ 総務部 「友の会たより」の発送

### ・平成 29 年度活動予定

○ 事業部 「第 39 回作品展」の会場

7 月に申し込む

☆ 特設コーナー 課題「ぐい飲み」

○ 専修部 秋期焼成会

(型起こしによる織部製作)

・逢阪博樹さん入部

○ 広報部 年 3 回「友の会たより」発行

○ 会計部 平成 29 年度予算額

○ 総務部 「友の会たより」の発送・名簿作成

### 事業部より

○ 第 38 回「作品展」を

平成 29 年 1 月 10 日 (火) ～ 15 日 (日)

会場「かなつくホール」にて行いました。

(詳細は 4 月号に掲載)

○ 第 39 回「作品展」開催予定は

(期日) 平成 30 年 1 月上旬

(会場) 第一希望「かなつくホール」

第二希望「みなとみらいギャラリー」

で準備中です。

(特設コーナー) 課題は「ぐい飲み」です。

※ 名前プレートを準備するために、「作品展

参加申し込み」の時点で特設コーナーへの

参加意思を必ずお書きください。

☆ 「作品展」の詳細については次回 11 月号

発送時に同封いたします。



訃報

横浜陶芸友の会 第四代会長

江口 鈺三郎様が 平成 29 年 4 月 9 日未明  
ご逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りすると  
ともにお知らせ申し上げます



江口 鈺三郎

「江口さんへの追悼」

鈴木 和子

江口さん

大好きな日本酒の大七を、自作ぐい呑みで  
いただく心地よい一時に、作品についてやした  
時間と釉薬と土との相性に付いて語る楽しい  
時間。友の会は作品を作る会。

自分が出来る範囲で何が出来るか、何が大  
切かなど。

切磋琢磨しながら真剣に取り組む姿が素敵  
でした。

96 年間 鈺三郎さん有難う御座いました。  
江口さんに頂いた幾つかのぐい呑みは、私  
の最強教本です。作陶頑張ります。

「江口さんありがとうございました」

出淵 僖江子

去る四月十一日、会長の高橋さんより頂い  
たメールで第四代友の会会長江口鈺三郎様が  
四月九日に亡くなられた事を知りました。

江口さんは長い間「友の会」のために尽力  
され多くの会員の中心となつて「横浜陶芸友  
の会」の今日の基礎を作られた方でいらつし  
やいます。

思い返しますと役員会での真剣なお話しぶ  
り、時には厳しく、また、時には優しいお顔、  
そして、お酒もお好きで「ぐい呑み会」での  
楽しそうなお顔、等々が思い出されます。

江口さん！ 本当に色々有難うございま  
した。  
今は唯、心よりご冥福をお祈り致して居り  
ます。

訃報

横浜陶芸友の会を古くから支えて

こられた 大泉武彦様が平成 29 年 2 月  
にご逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りすると  
ともにお知らせ申し上げます



「大泉さんの思い出」

鍋島 弘義

また一人、陶芸を心底愛した方が逝つてし  
まいました。淋しい限りです。

大泉さんと言えば、伊豆の吉村先生が主催  
する「へんどの会」に参加され、窯作り・土  
作り・窯焚きなど熱心に研究されていました。

友の会の会員の方も多く参加されていました。  
私も、大泉さんに誘われて一緒に伊豆で窯  
焚きする計画がありました。吉村先生が亡  
くなられ実行出来なくなりました。



吉村先生を囲んで

大泉武彦さんの作品



思い出されるのは、教文センターで作品展  
を開催していた時、広い展示スペースを確保  
し、大きな花器を一つ置いたところ、周りか  
ら狭められ次の日に、他の作品を二点持参し  
「広い所に置きたかったのに」と、嘆いてい  
ました。

後年、人工透析に通われながらも、最後ま  
で友の会会員として名を連ねられた大泉さん  
の御冥福を心よりお祈りいたします。

加瀬さんの退会届

横浜陶芸友の会創設以来、この会を支えてこられた加瀬様より退会のお手紙が届けられました。

今までの感謝をこめて、皆様にお知らせするとともに、ここに全文を掲載いたします。



私は横浜陶芸友の会元会員加瀬ヒサ子です。大変長い間お世話になりました。

感謝の言葉しか浮かばない気持ち一杯です。

私は平成 28 年 10 月 24 日、路上にて転倒して眉の上 7 針程切りまして、足は全然歩けない状態となりました。ので、第 38 回作品展には作品も持てず、郵送することも出来ぬ故、これでは到底行動出来ぬと自覚し、電話口に出た方に「陶芸友の会は退会いたします。」と申し上げました。

作品展になつては「貴女が出席しないとは？」と、お電話をいただきましたが「歩けない」「杖では思ったように行動できない」と、ことを分けて説明できず、それだけで過ぎてしまいました。

私は信岡さんに、是非とお誘いを受け「私の一品」が最後の記事となり思い出深いものとなり、ありがとうございます。と、厚くお礼を申し上げたく思っております。

又、会長とは、八田さんの事を聞き、ご一緒に通夜に伺ったこと等、思い出も少なからず、いろいろとお世話になり有難うございました。

二〇一七年四月七日 記

加瀬ヒサ子

唯今は「加賀原ケアプラザ」にて一週一回の支援を受けております。

横浜陶芸友の会 高橋光男会長

御許に



【作陶展拝見】

5月3日、友の会会員の山村さんの作陶展に、お伺いしました。(於…江ノ島Tギャラリー)。この江ノ島Tギャラリーでの開催は今年で10年目になるそうです。

今回のテーマは鳴海織部と青白磁とのことで、印象深い作品が沢山ありました。

会場には、数々の伝統的な作品に混じってトルコ青やピンクのモダンな作品もあり、若い人たちの陶芸への興味も広がることと思えました。

このように意欲的な活動が、陶芸人口の裾野を広げ、友の会の活動を高めていくものと強く感じました。(広報・大日方)



『第38回 作品展』②

前号に引き続き「作品展」の紹介です。



池見千枝子さん



○作品は日常家で使えるものを作りました。今回のランプシェード、角皿、湯呑、はがき掛けの織部釉の濃い緑が気に入りました。  
・下駄は自分の足でいつまでも歩けるよう願いを込めて作ってみました。  
・今回も皆様の作陶の技術の素晴らしさと個性豊かな作品にとっても感動しました。



○今年の絵の花は、沈丁花です。いつもは、デザイン化したものを探して



清水あや子さん



○この作品は、小杉の先生の所で焼いてもらいました。先生は福島の矢祭に穴窯をもっていらして、地元の人たちと年に2回焼いています。お願いすると持って行って一緒に焼いてくれます。  
・中鉢は白萩に青銅を掛けたもので先生も流れやすいから難しいとおっしゃっていました。



根岸あや子さん



○黄瀬戸は、毎年東京ドームで行われているテーブルウェア展に行って見ているが最近、黄色にこだわっていて、黄色っぽいのが好いかな？と、思うようになり、少し釉薬の配合を調整している。土は五斗蒔を主体にしているが、黄瀬戸は色が薄いので



井上 明さん



それを参考にして絵を描くが、今年は庭にあった花を見て描きました。線描きが慣れていなくて、筆が走らずゴチゴチになってしまう。骨描きの時は目立たないが、透明釉を掛け本焼きすると線が見える。それが耐えられない。  
・いつも皿に絵を描くが、今年はカップに描いてみた。曲面に描くのが、すごく難しいのがやってみて解った。やる前に試行錯誤して練習してからやらないとだめですね。



松崎紀一さん



土が変わると同じ釉薬でも全く変わる。サンブルの量は半端じゃない。  
作品は身延の穴窯で大体焼いているが織部も薪で還元をかけると土色も御本手のように緋色が出て面白い。織部も炭酸バリウムを使うと還元をかけても赤くならない。  
志野は五昼夜焼くが、皆で穴窯だから出来るのであって、これを一人でガスでやると長いよ。離れるわけにもいかないから。  
若い時はいいけど。だから、短期間で焼けるように釉薬を考えているところです。

○お人形さんに限らず作っている時は楽しい。本当は、女の子を出すつもりで準備していたのだが、今回は時間がなくて地蔵シリーズになってしまった。  
鞘に炭を入れて還元で焼いたのだが温度が上がりすぎて気持ちは失敗だと思っている。  
窯には六体ずつ三十体入れたのだが微妙に大きさが違ったので、今回は合わせて出しました。

# 陶陶さん

第 90 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

## 横浜陶芸友の会だより 第 168 号

(平成 29 年 7 月 1 日発行)  
発行人 横浜陶芸友の会  
会長 高橋 光男

編集責任者 広報部長 吉良謙

### 専修部 29 年度活動予定

#### ① 秋期焼成会

・平成 29 年 9 月 (技能文化会館 602 号)

「型おこしによる織部製作」

#### ② 秋期焼成会日程 (お知らせ参照)

#### ③ 平成 30 年 1 月発行 友の会だよりで

秋期焼成会の結果報告

### 専修部 秋期焼成会のお知らせ

今期のテーマは、友の会だより(167号)でお知らせしたように、「型おこしによる織部製作」を行います。

型は、この3月に専修部で作った石膏型のほか、部員所有のものを用意します。

また、織部土も用意しますので必要な方は、事前予約とさせていただきます。

型ものは向付、鉢、皿など形状や文様など多種多様で、ロクロや手捻りとは違った面白さがあります。

魅力的な作品作りに多くの方の参加をお待ちしています。

#### 〈実施内容〉

##### 1【日程】

・ 8月27日(日)

10時～15時

型おこしによる作品作り

参加及び織部土を希望する方は、一括購入しますので、はがき又は FAXにて、井上専修部長あて8月5日(土)までお申し込みください。

(住所)

(FAX)

(記載事項)

①参加者氏名 ②連絡先

③量 (1kg単位とします)

・ 9月3日(日) 10時～11時30分

作品受付 (型もの以外も可)

・ 9月10日(日) 9時～11時30分

釉薬掛け(織部、織部用透明、黒天目、白萩、黄瀬戸、土灰、灰天目、白マット、ルリ、透明、青磁氷裂)

絵付け \*いずれも酸化焼成

・ 9月17日(日) 10時～11時

作品引渡 鑑賞

#### 2【場所】

横浜市技能文化会館 6階 602号

#### 3【土代、焼成代】

○ 織部土 1kg 200円

(自分の土を持参する場合は必要なし)

○ 素焼きと本焼き 100g 100円

#### 【編集後記】

今号も沢山の会員の作品紹介記事で紙面が埋まりました。会の活性ぶりが伺える会報となり次の作品展報告が楽しみです。 季楽軒